

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部3年

氏名: 持田あぐり

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅢ(マラヤ大学)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>4、5年生のプレクリニックの見学をした。4年は根管治療、5年はクラウンの治療を行っていた。日本と違い、マレーシアでは学生が担当の患者を持ち、一通りの治療を卒業するまでに経験することができる。早い段階で臨床を始めることができるシステムは勉強のモチベーションにも繋がるため良いと思った。大学院生と共に模型での実習や研究室での講義に参加した。実習では、日本では使用を禁止されているアマルガムでの治療を行なった。アマルガムは現在は日本で使用が禁止されているが、口腔内に過去の治療で残っている患者さんもある材料ではあるため、日本では実習を行うこともないので貴重な経験となった。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>マレーシアでは朝活動を始める時間が早い人が多かった。食事が基本的に外食であることもあり、朝大学に来た後に朝ご飯を集まって食べていた。先生方に混ぜていただき朝ごはんを食べる機会が何度かあったが、他の国や大学での話、マレーシアでの話など様々なお話を聞くことができた。また、マレーシアの方が時間にルーズであることも含め、診療時間は余裕のあるスケジュールが組まれており、一人の歯科医師が午前中に診る患者さんは多くても3人であった。余裕のあるスケジュールであるため、患者さんと話をしながら義歯の調整も細かく行うことができていた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>初日に学生のプレクリニックの見学に行った際に、英語の歯科用語をあまり知らなかったため、説明を理解するのにとても苦労した。3年生は臨床の勉強が始まったばかりであったため、マレーシアに行く前に臨床の知識を増やすことに注力していたが、英語の知識が不足していたと気付かされた。マレーシアの大学院は様々な国から来ている人がいたが、大学での勉強は全て英語の国がほとんどであった。研修を受けていく中で英語での歯科の知識が増え、だんだんと理解できるようになった。今回の海外研修で、他の国や学会で自身の知識と経験の幅を増やすためには英語は必須であると直に感じ、より英語の勉強をした上で海外に行きたいと思うようになった。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>今回の海外研修では様々な治療を見ることができた。補綴科での研修であったため、義歯の作成や調整を見る機会が多かったが、歯は生活に欠かせないものであるなど改めて実感した。外傷学会に来ていた先生方の講演を聞く機会もあったが、国によって治療方針は変わるものの、自身の歯が残っているということが治療の幅を広げ、その後の生活も豊かにできると感じた。これからの日本では、治療方法の確立も必要であるが、まず既存の歯を長く健康に生かすことがとても重要であるため、歯科医師として診療に携わると共に、予防のために患者さんにも歯科の知識を広めて行きたいと思った。</p>	